

平成24年度「新入生の生活に関する調査」

第5回 「どのような新入生と保護者が学生寮を認知・希望しているか」

前回は「どのような新入生と保護者が奨学金を認知・希望しているか」についてご報告いたしました。その中で、新入生、保護者とも、学生支援に関する情報を知っている、あるいは支援のニーズが高いほど、奨学金を希望していることが示されました。そこで、今回は新入生と保護者の学生寮の認知や希望についてご報告したいと思います。

1. 新入生の結果

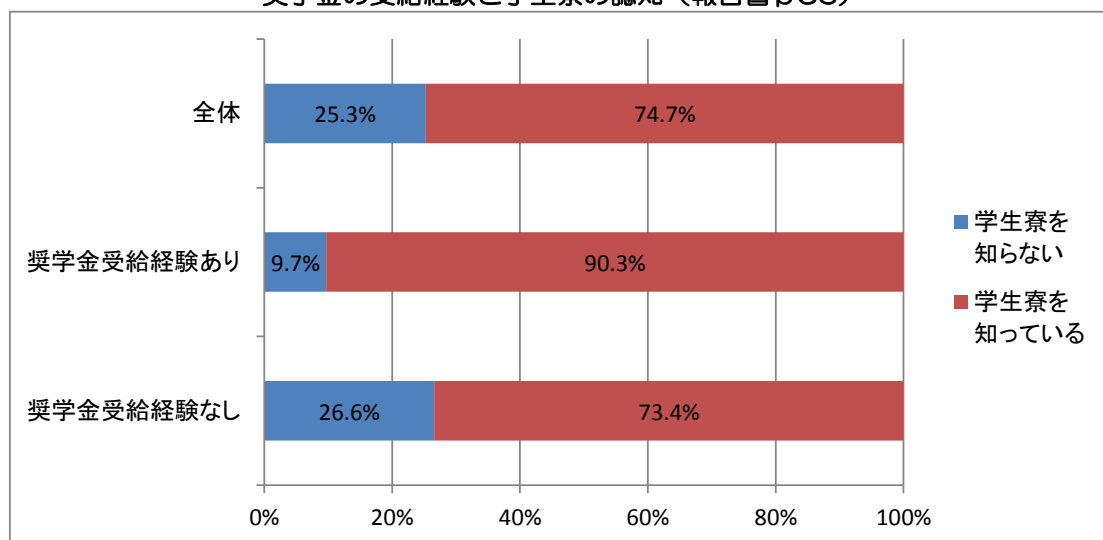
(1) 奨学金受給経験があるほうが、学生寮の認知度が高い

まず、新入生の学生寮の認知度を調べました。また、奨学金の受給経験によって、学生寮の認知度が異なるのかを調べました。

その結果、全体では、7割を超える新入生が学生寮について認知していましたが、これは、昨年度を上回る希望者数で、学生寮の認知が増えていることを示しています。

また、奨学金受給経験がある方が学生寮の認知が高く、奨学金受給経験がない方が、学生寮の認知が低いことが示されました。昨年度の結果では、奨学金の受給経験と学生寮の認知の間に、有意な関連は認められませんでした。本年度の結果からは、奨学金の受給経験が高いものほど、学生寮についても認知しており、様々な経済的支援を把握しているものと考えられます。

奨学金の受給経験と学生寮の認知（報告書p56）



2. 保護者の結果

(1) 学生寮について認知している者ほど、学生寮への入寮を希望する割合が高い

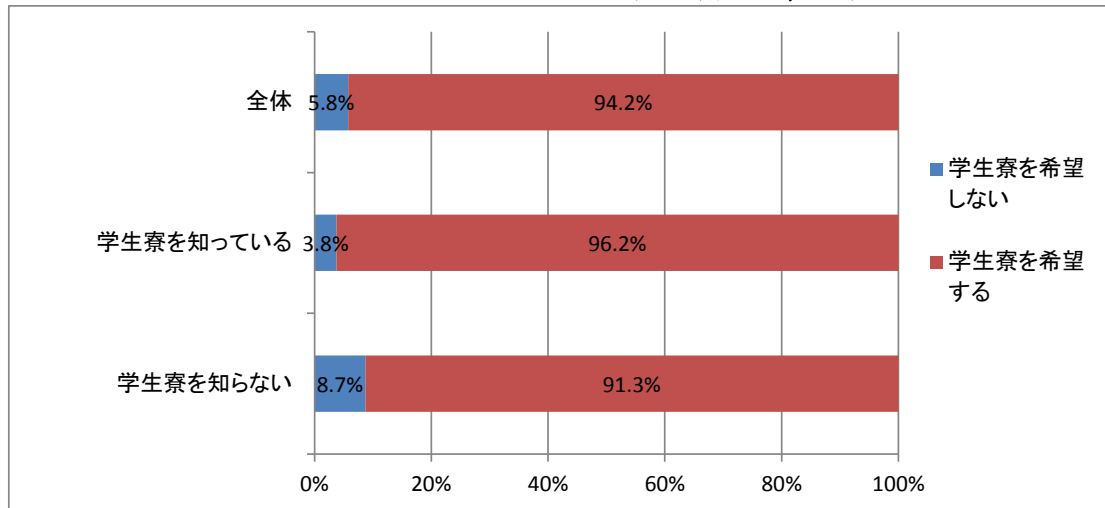
次に、保護者の学生寮への入寮希望の有無を調べました。また、学生寮についての認知

と入寮希望との関連を調べました。

その結果、全体では、9割を超える保護者が学生寮への入寮を希望していることがわかりました。これは、昨年度を上回る希望者数で、学生寮への入寮を希望する割合が増加していることを示しているといえます。

また、学生寮について認知している場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、認知していない場合は、入寮を希望する割合が低いことがわかりました。このことから、学生寮をはじめとした支援の情報を周知させることにより、支援のニーズが高まるものと考えられます。

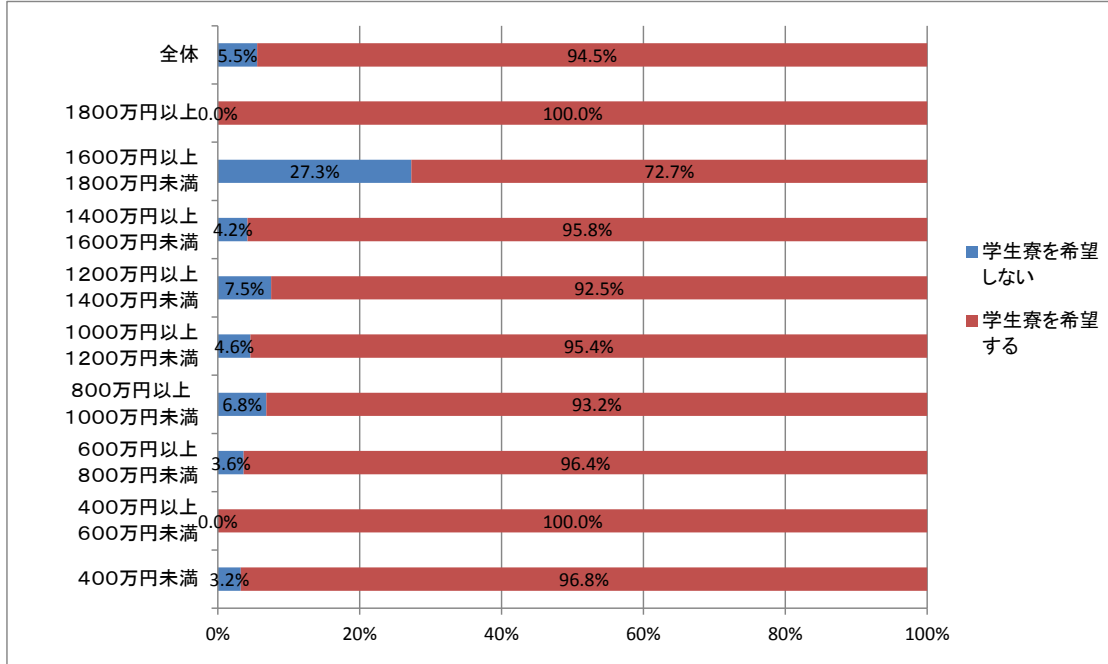
学生寮の認知と学生寮への入寮希望（報告書 p58）



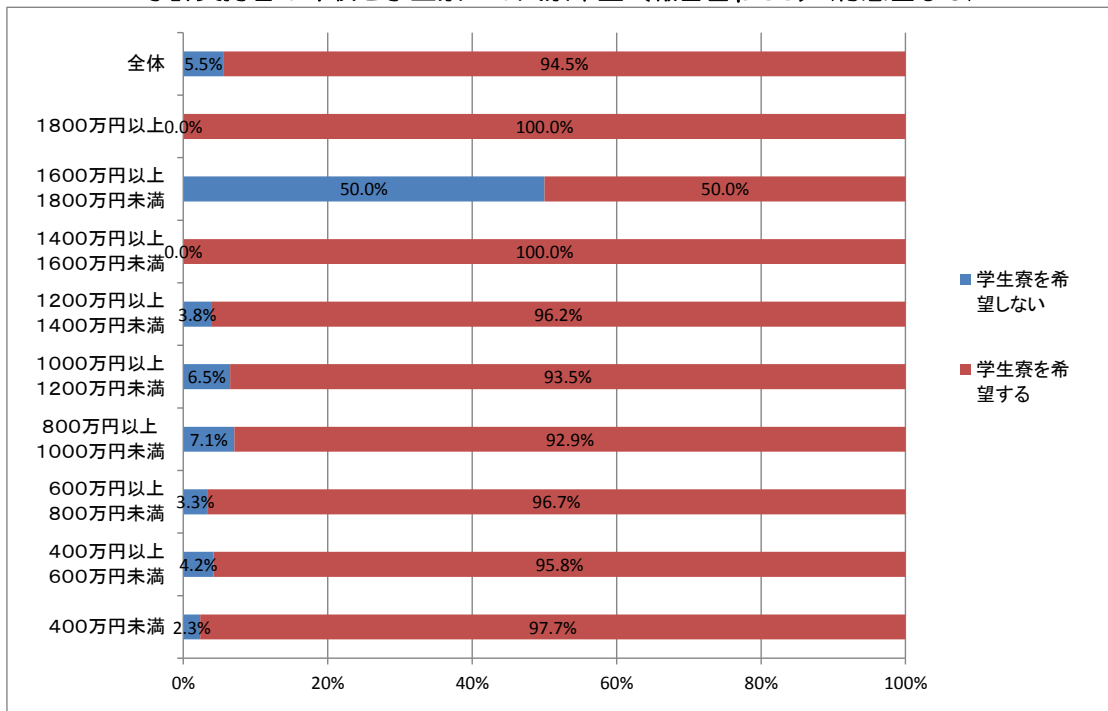
(2) 必ずしも年収が低くなくても、学生寮への入寮を希望している

また、昨年度の結果との違いとして、昨年度は、世帯年収・家計支持者の年収が低いもの、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じているものは、学生寮への入寮の希望者が多いことが示されましたが、今年度の結果では、これらの関連は認められませんでした。これは、必ずしも経済的な理由から学生寮への入寮を希望するわけではなくなっていることを示唆するものではないかと考えられます。本学には3つの学生寮がありますが、各寮において機能や特徴が異なり、経済的支援の他、教育的支援、他者との共生の場としての機能をもつ「お茶大 SCC」もあります。学生寮にこうした経済的支援以外の意義が認められてきたことで、年収が低くない場合でも、学生寮への入寮を希望する家庭が見られるようになったのではないのでしょうか。

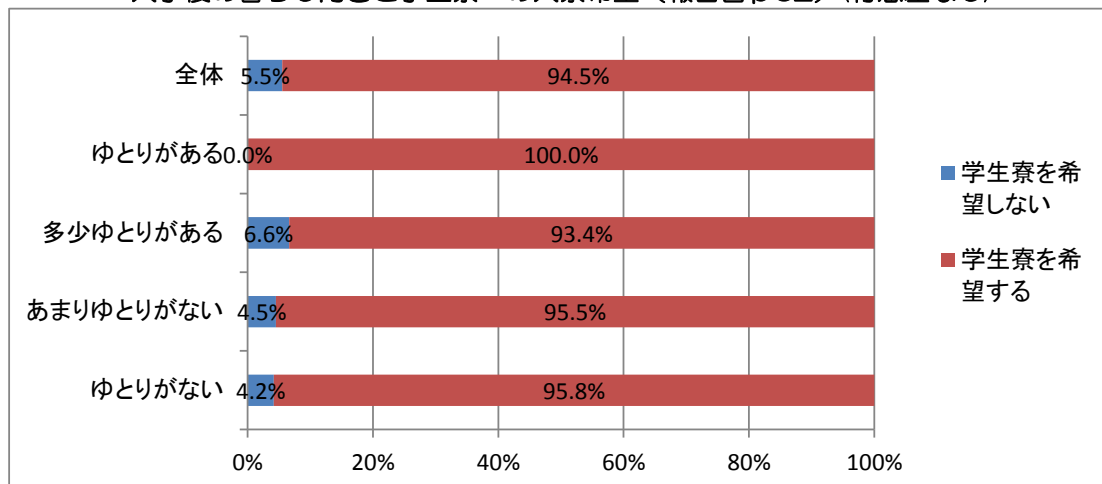
世帯年収と学生寮への入寮希望（報告書p59）（有意差なし）



家計支持者の年収と学生寮への入寮希望（報告書p60）（有意差なし）



入学後の暮らし向きと学生寮への入寮希望（報告書 p62）（有意差なし）



3. まとめ

今回の結果からは、家庭の年収や暮らし向きにかかわらず、学生寮の認知や希望が高いことが分かりました。昨年の結果では、家庭の年収の低さや入学後の暮らし向きのゆとりのなさといった支援ニーズが高い者ほど、学生寮の認知や希望が高いことが示されましたが、今年度の結果からは、単に経済的支援としてだけでなく、学生寮の教育的支援の意義が認められてきたことで、年収が低くない場合でも、入寮を希望する家庭が見られるのではないかと考えられます。今後は、それぞれの学生寮の特徴、対象等を分かりやすく明示し、各自のニーズにあった学生寮を選択できるよう、情報提示を行っていくことが課題と考えられます。

これで、平成 24 年度「新入生の生活に関する調査」についてのご報告を終わります。



平成 24 年度新入生に対しても、今年度と同様の調査を実施いたします。その結果は、今年度同様、報告書としてまとめるとともに、research report としての配信も予定しております。

「学生支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子入手できるほか、TeaPot からもPDF形式でダウンロードいただけます。（<http://hdl.handle.net/10083/52311>）